



第3章

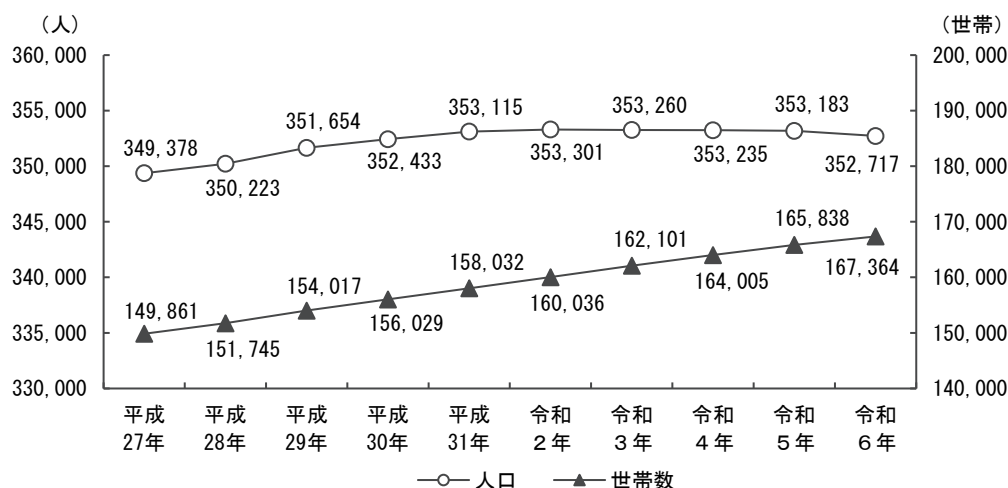
市民の健康をめぐる状況

I 人口動態

(1) 人口と世帯数の推移

本市の人口は、令和 6（2024）年現在で 352,717 人となっています。

また、世帯数は増加し続けており、令和 6（2024）年現在で 167,364 世帯となっています。

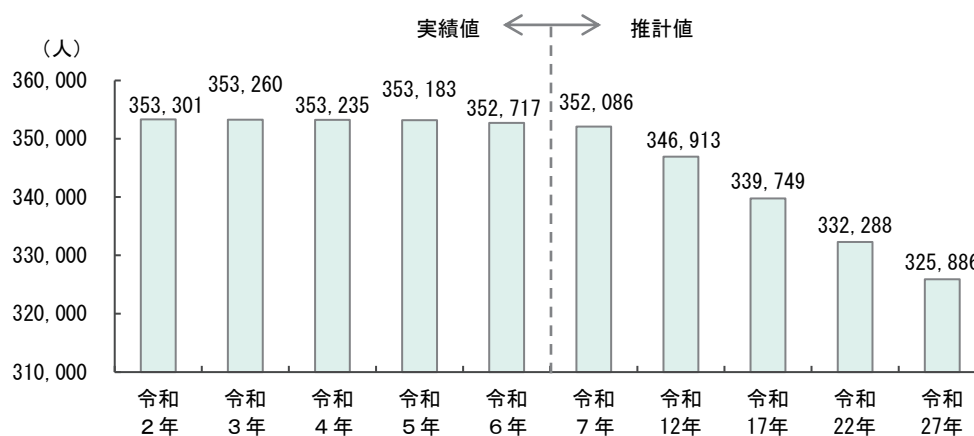


資料：川越市住民基本台帳（各年1月1日現在）

(2) 将来人口予測

本市の将来人口は減少し続けることが予測されており、令和 27（2045）年の人口は、令和 6（2024）年よりも約 27,000 人少ない 325,886 人になると予測されています。

【 将来人口の推移 】

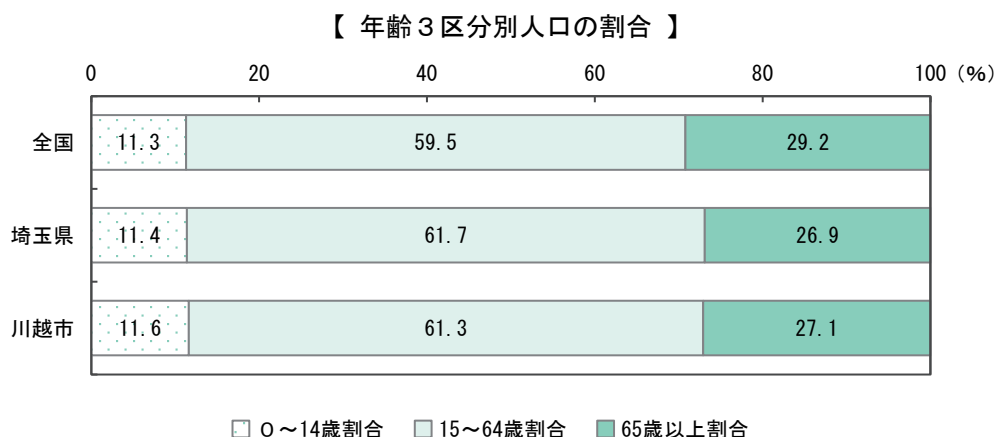


資料：実績値）川越市住民基本台帳（各年1月1日現在）

推計値）川越市推計

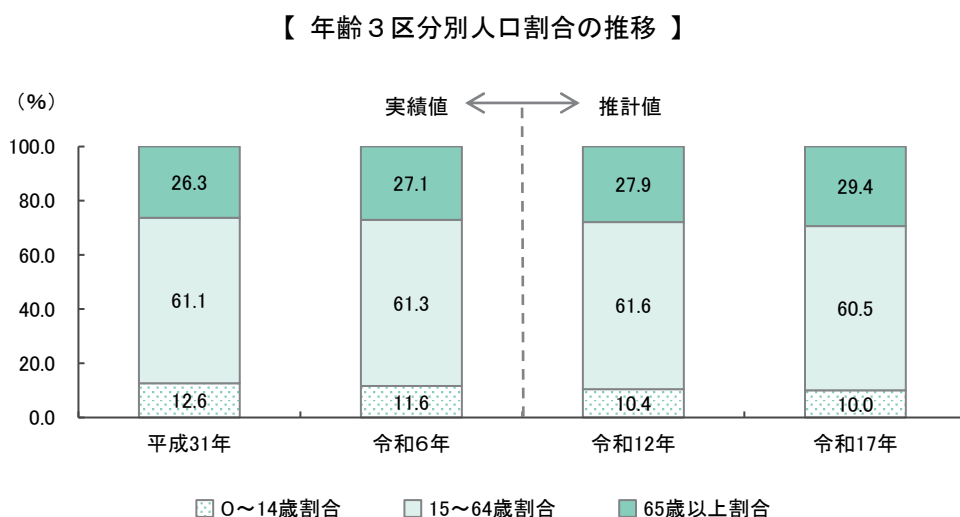
(3) 年齢3区分別人口

本市の年齢3区分別人口割合を見ると、0～14歳までの年少人口は11.6%、15～64歳までの生産年齢人口は61.3%、65歳以上の高齢者人口は27.1%となっており、全国、埼玉県とほぼ同じ割合となっています。



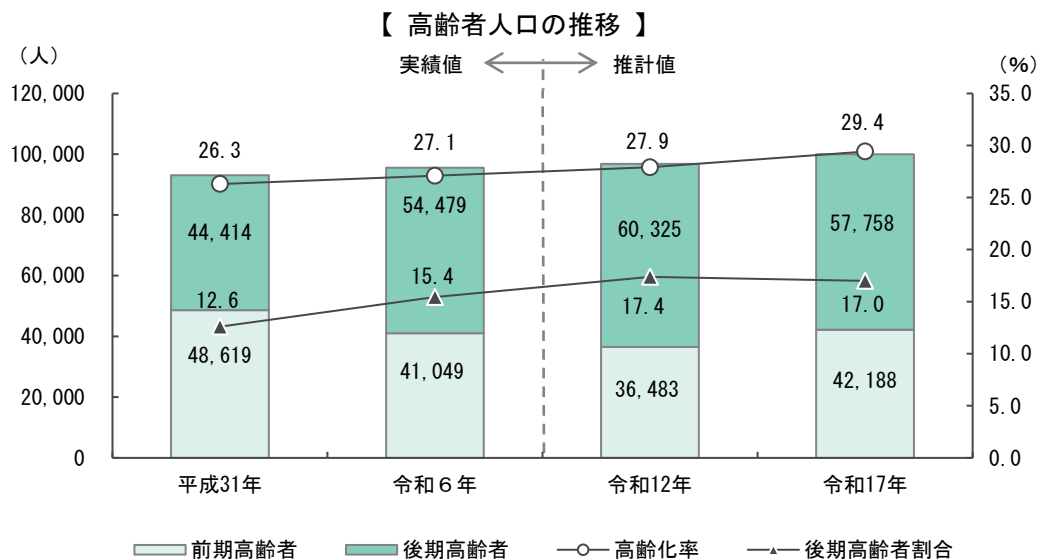
資料：市・県）埼玉県町（丁）字別人口調査（令和6(2024)年1月1日現在）
 国）総務省統計局 人口推定 令和6(2024)年1月確定値
 （令和6(2024)年1月1日現在）

年齢3区分別人口割合の将来推計値を見ると、0～14歳までの年少人口の割合が減少し、令和17（2035）年には10.0%になると予測されています。一方、65歳以上の高齢者の割合は増加し、令和17（2035）年で29.4%と、少子高齢化がさらに進むことが予想されています。



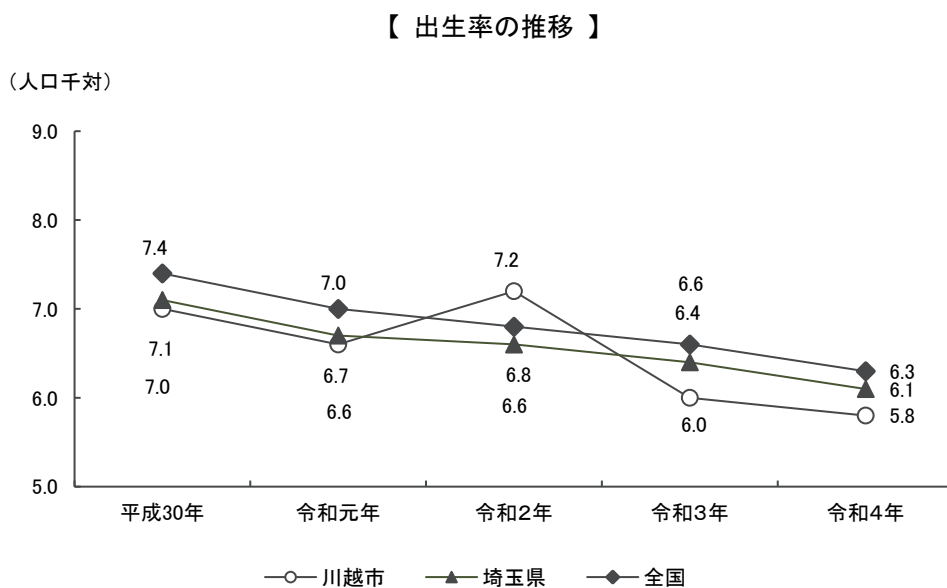
資料：実績値）埼玉県町（丁）字別人口調査（各年1月1日現在）
 推計値）川越市推計

高齢者人口割合の将来推計値を見ると、令和 12（2030）年までは、65～74 歳までの前期高齢者が減少し、75 歳以上の後期高齢者が増加することが予測されていますが、令和 17（2035）年では、後期高齢者が減少に転じる一方、前期高齢者が増加に転じると予測されています。



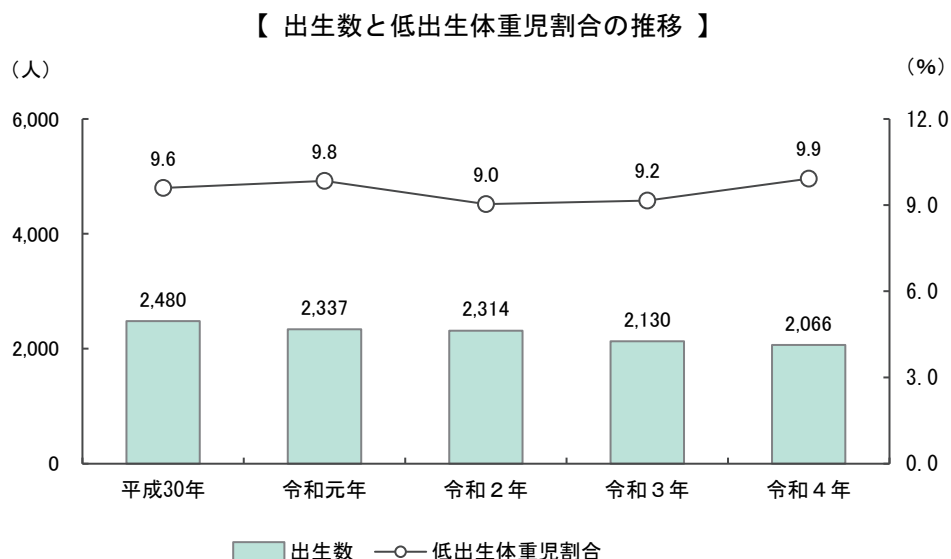
（４）出生率の推移

本市の出生率※は、令和 2（2020）年を除き、全国、埼玉県を下回っています。



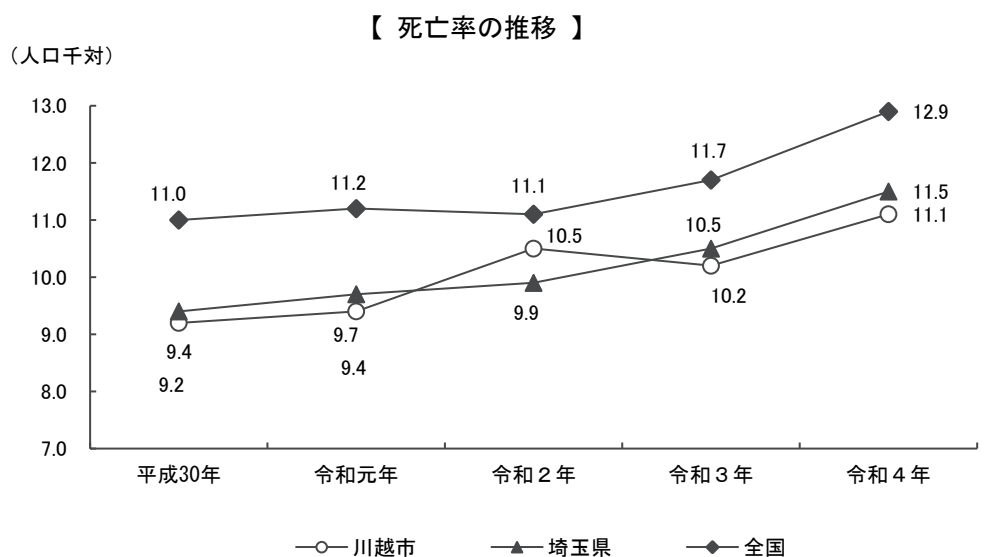
（５）出生数と低出生体重児割合の推移

本市の出生数は、減少傾向にあり、令和４（2022）年で2,066人となっています。また、低出生体重児※の割合は、令和２（2020）年に減少し9.0%となりますが、令和４（2022）年では増加し9.9%となっています。



（６）死亡率の推移

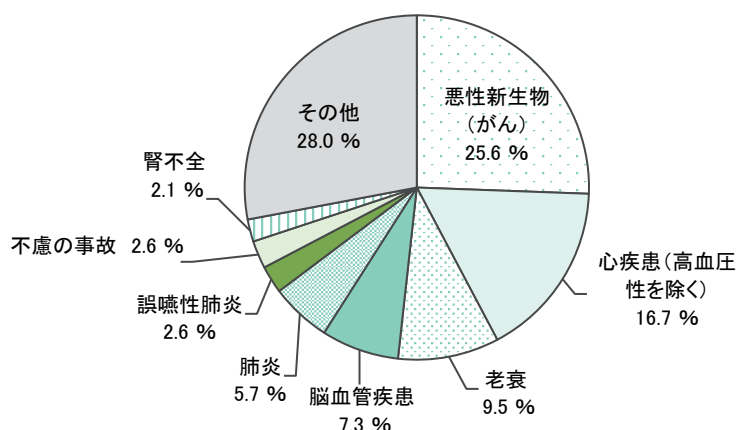
本市の死亡率は、平成 30（2018）年以降、大きく増加しており、令和 4（2022）年の死亡率は 11.1 となっています。全国、埼玉県と比較すると、令和 2（2020）年を除き、いずれも下回る水準で推移しています。



(7) 主な死因

本市の死因は「悪性新生物（がん）」が25.6%と最も高く、次いで「心疾患（高血圧性を除く）」が16.7%となっています。また、第4位の「脳血管疾患」が7.3%となっており、三大生活習慣病による死亡割合は全体の約半数（49.6%）となっています。

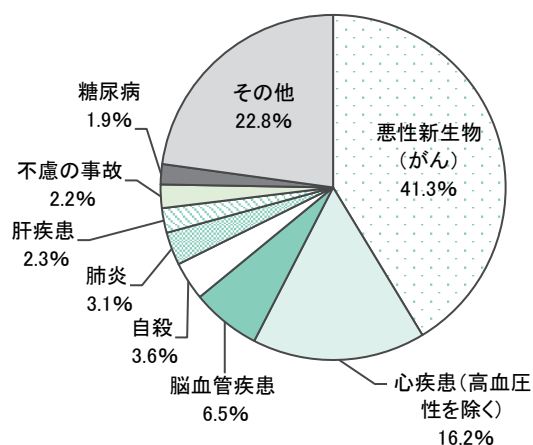
【 死因別死亡割合令和4（2022）年 】



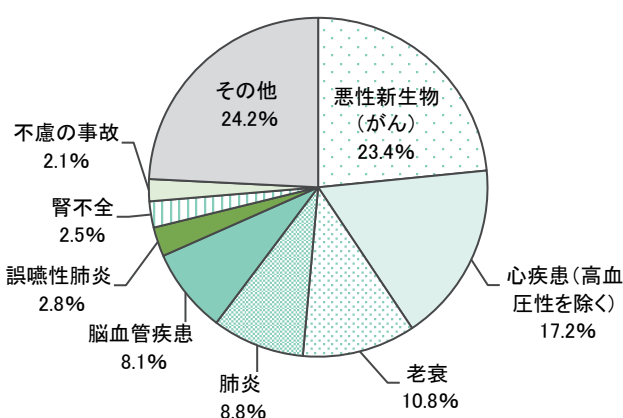
資料：埼玉県衛生研究所データ（地域別健康情報 令和5(2023)年度版）

年代別に見ると、40～74歳では「悪性新生物（がん）」が約4割と高い水準となっており、75歳以上では「肺炎」、「脳血管疾患」の割合が40～74歳と比べて高い水準となっています。

【40～74歳死因別死亡割合 平成30（2018）年～令和4（2022）年】



【75歳以上死因別死亡割合 平成30（2018）年～令和4（2022）年】



資料：埼玉県衛生研究所データ（地域別健康情報 令和5(2023)年度版）

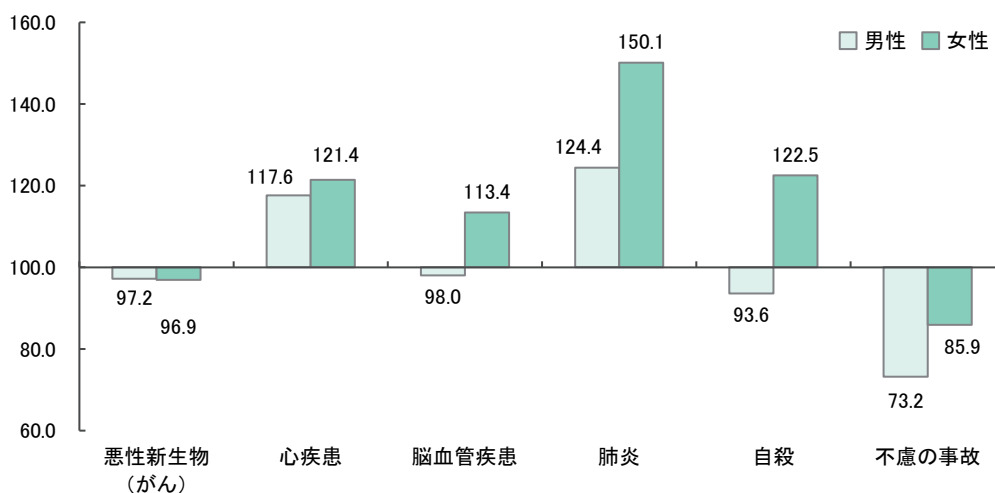
(8) 男女別標準化死亡比 (SMR)

標準化死亡比とは、集団の実際の死亡数（本市）と、基準母集団（全国、埼玉県）の死亡数との比です。

本市の標準化死亡比を全国と比較すると、男女とも「心疾患」、「肺炎」が高くなっています。また、女性では「脳血管疾患」、「自殺」が高くなっています。

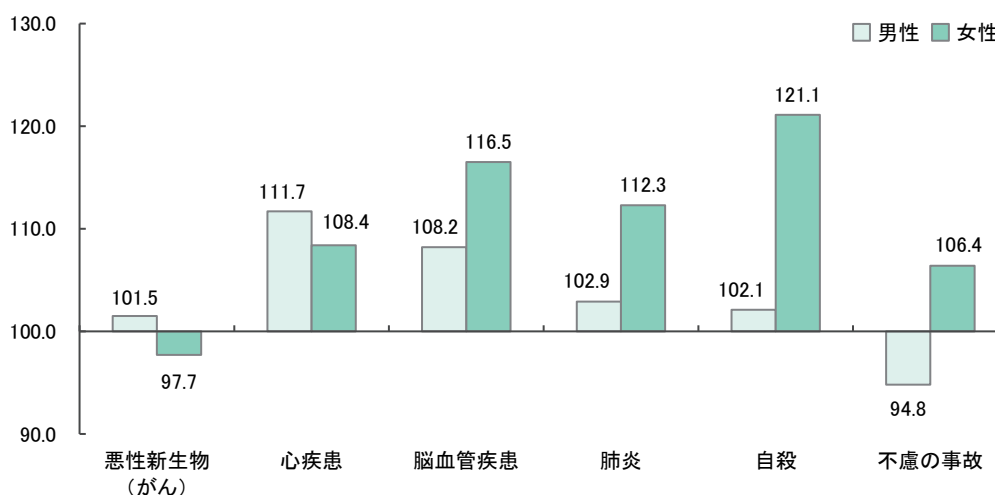
埼玉県と比較すると、男女とも「心疾患」、「脳血管疾患」、「肺炎」、「自殺」が高くなっています。

【標準化死亡比 平成30(2018)年～令和4(2022)年 全国との比較】



資料：厚生労働省 人口動態統計特殊報告人口動態保健所市区町村別統計
(平成30(2018)年～令和4(2022)年)

【標準化死亡比 平成30(2018)年～令和4(2022)年 埼玉県との比較】

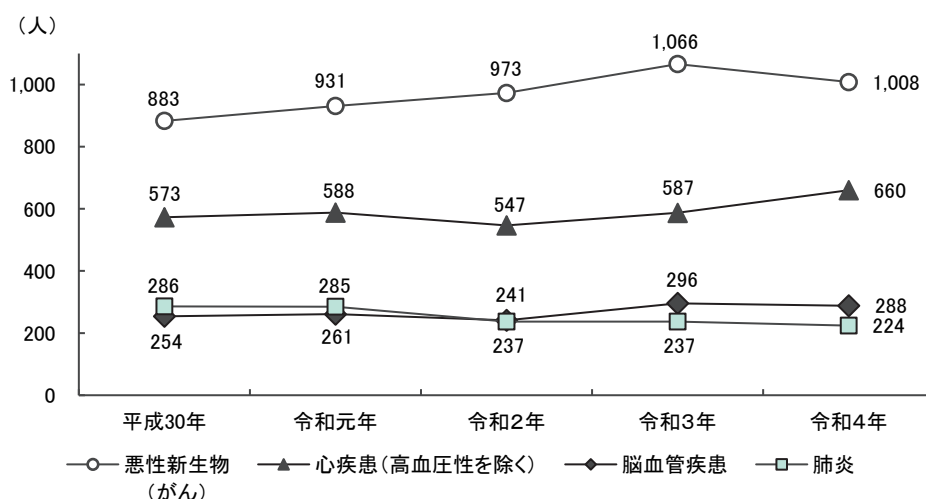


資料：埼玉県衛生研究所データ（地域別健康情報 令和5(2023)年度版）

(9) 三大死因および肺炎の死亡者数の推移

本市の三大死因および肺炎の死亡者数の推移を見ると、平成30（2018）年に比べ「悪性新生物（がん）」、「心疾患（高血圧性を除く）」、「脳血管疾患」が増加しています。一方、「肺炎」の死亡者数は、平成30（2018）年と比べ、減少しています。

【 三大死因および肺炎の死亡者数の推移 】



資料：埼玉県保健統計年報

【 ＜参考＞ライフステージ別死因順位（平成30(2018)年～令和4(2022)年） 】

	幼年期 (0～4 歳)	少年期 (5～14 歳)	青年期 (15～24 歳)	壮年期 (25～44 歳)	中年期 (45～64 歳)	高齢期 (65 歳以上)	総数
第1位	先天奇形、変形 及び染色体異常 20%	悪性新生物 (がん) 40%	自殺 58.3%	自殺 34.3%	悪性新生物 (がん) 39.5%	悪性新生物 (がん) 26.9%	悪性新生物 (がん) 27.8%
第2位	周産期に発生 した病態 15%	不慮の事故 20%	不慮の事故 13.9%	悪性新生物 (がん) 20.3%	心疾患(高血 圧性を除く) 17.2%	心疾患(高血 圧性を除く) 16.9%	心疾患(高血 圧性を除く) 16.9%
第3位	悪性新生物 (がん) 10%	心疾患(高血 圧性を除く) 6.7%	先天奇形、変形 及び染色体異常 5.6%	心疾患(高血 圧性を除く) 16.8%	脳血管疾患 7.5%	老衰 9.1%	老衰 8.2%
第4位	不慮の事故 10%	脳血管疾患 6.7%	悪性新生物 (がん) 2.8%	不慮の事故 4.9%	自殺 6.0%	肺炎 7.9%	脳血管疾患 7.7%
第5位	その他の新生物 5%	間質性肺疾患 6.7%	心疾患(高血 圧性を除く) 2.8%	脳血管疾患 4.5%	肝疾患 4.2%	脳血管疾患 7.8%	肺炎 7.2%
第6位	インフルエンザ 5%	—	大動脈瘤 及び解離 2.8%	糖尿病 1.4%	不慮の事故 2.6%	誤嚥性肺炎 2.5%	誤嚥性肺炎 2.3%
第7位	乳幼児突然 死症候群 5%	—	他殺 2.8%	肝疾患 1.4%	糖尿病 1.7%	腎不全 2.3%	不慮の事故 2.2%
第8位	—	—	—	その他の新生物 0.7%	肺炎 1.7%	不慮の事故 2.1%	腎不全 2.1%
	その他 30%	その他 20%	その他 11.1%	その他 15.7%	その他 19.6%	その他 24.5%	その他 25.6%

資料：埼玉県衛生研究所データ（地域別健康情報 令和5(2023)年度版）

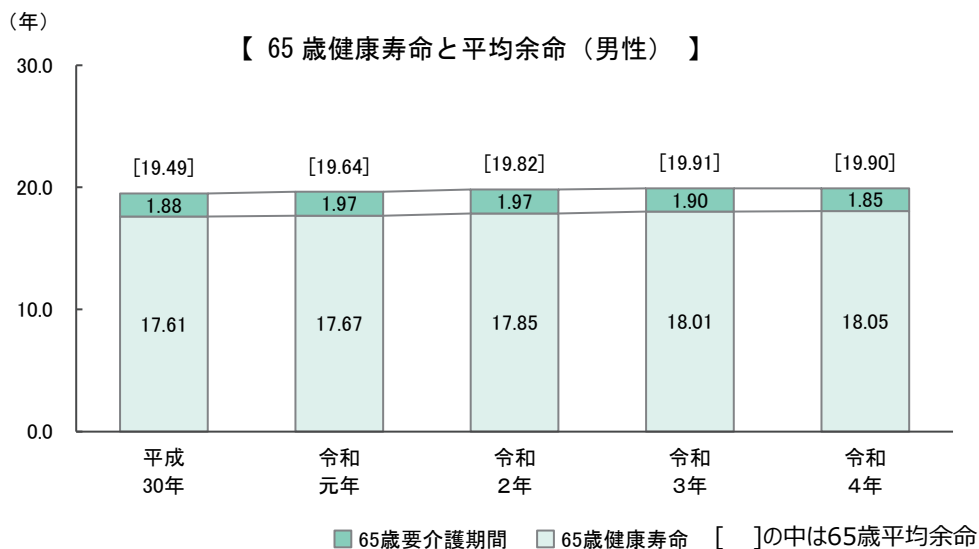
2 健康寿命

(1) 健康寿命と平均余命

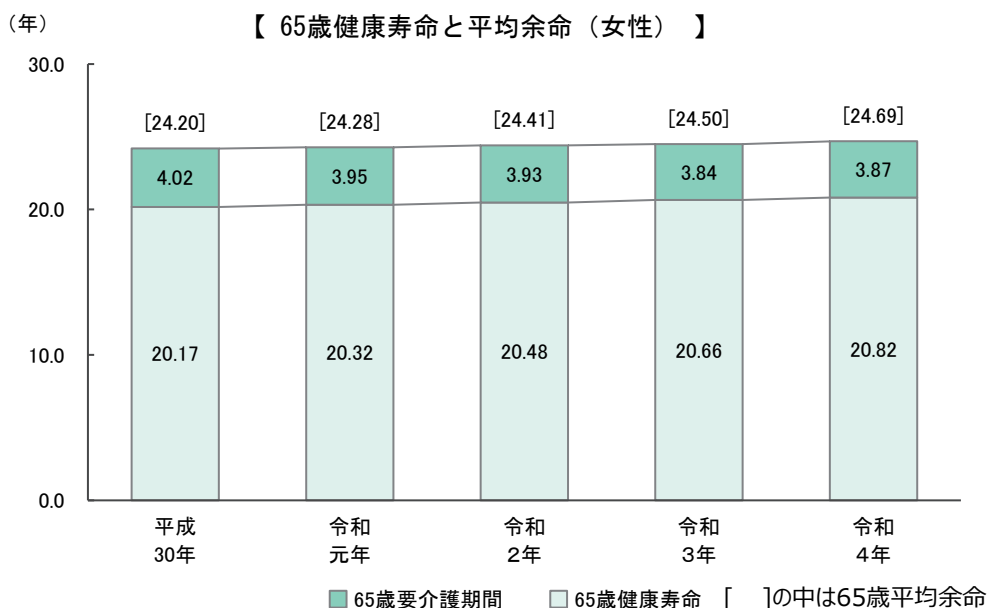
健康で自立した生活を送れる期間を「健康寿命」といい、平均余命※の中で、健康でいる期間のことです。本プランでは、埼玉県と同様に 65 歳に達した人が介護保険制度の「要介護 2 以上」になるまでの期間を健康寿命と定義しています。

本市の令和 4（2022）年における 65 歳からの健康寿命は、男性が 18.05 年、女性が 20.82 年となっています。

また、平均余命と健康寿命の差（65 歳要介護期間）は、男性よりも女性が大きくなっています。



資料：埼玉県衛生研究所データ（地域別健康情報 令和元(2019)年度版～令和5(2023)年度版）

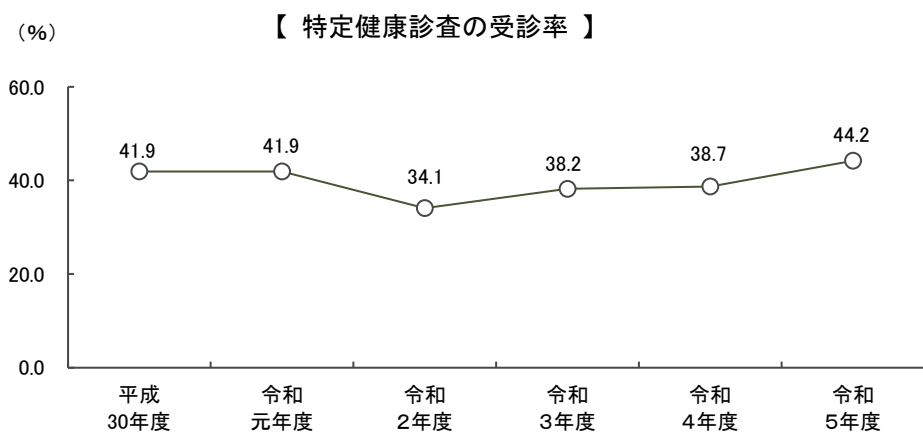


資料：埼玉県衛生研究所データ（地域別健康情報 令和元(2019)年度版～令和5(2023)年度版）

3 健康診査等の状況

(1) 特定健康診査の受診率

川越市国民健康保険特定健康診査の受診率を見ると、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2（2020）年度は34.1%と減少しましたが、その後は回復傾向にあり、令和5（2023）年度は44.2%となっています。



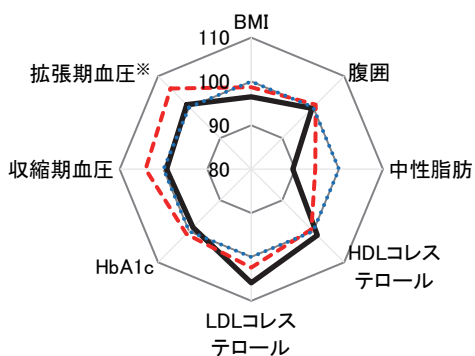
資料：厚生労働省 特定健診・特定保健指導保険者別実施状況（法定報告）

(2) 男女別特定健康診査有所見率

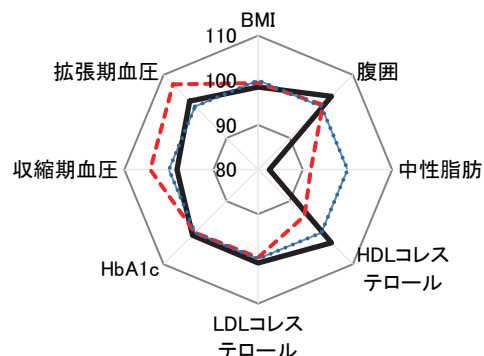
川越市国民健康保険特定健康診査の男女別有所見率を見ると、全国や埼玉県よりも男性はLDLコレステロール※が高く、女性は腹囲とHDLコレステロールが高くなっています。

なお、男女ともBMIや中性脂肪※、収縮期血圧※は、全国や埼玉県よりも低くなっています。

【男性】



【女性】

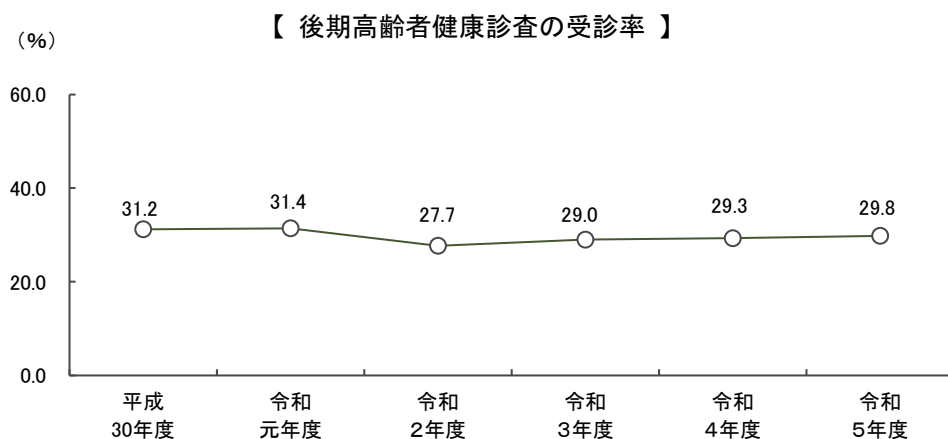


— 川越市 - - - 埼玉県 全国 — 川越市 - - - 埼玉県 全国

資料：KDBシステム「健康診査有所見者状況（男女別・年代別）」
（令和5（2023）年度版）

(3) 後期高齢者健康診査の受診率

川越市後期高齢者健康診査の受診率を見ると、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2（2020）年度は27.7%と減少しましたが、その後は回復傾向にあり、令和5（2023）年度は29.8%となっています。



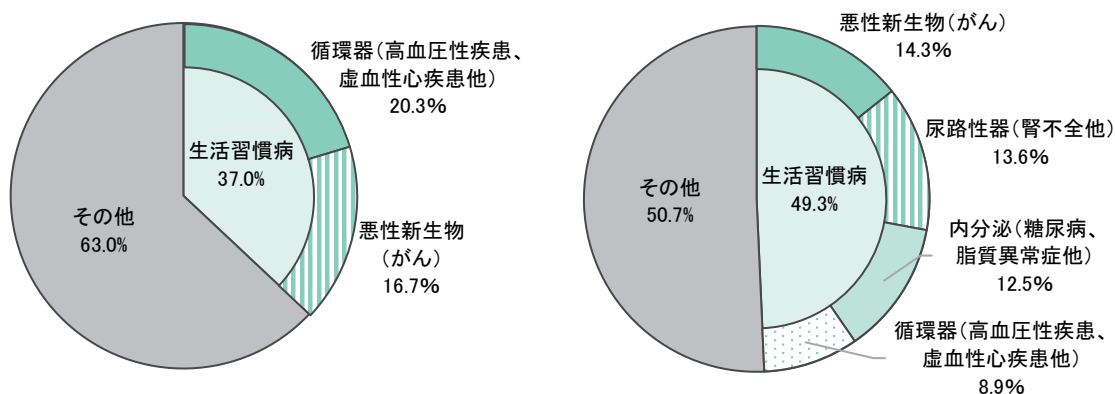
資料：埼玉県後期高齢者医療広域連合 高齢者保健事業実施状況報告書

4 医療費・介護の状況

(1) 疾病分類別の医療費の割合

川越市国民健康保険被保険者の医療費における生活習慣病の割合を見ると、入院では37.0%、外来では49.3%となっています。

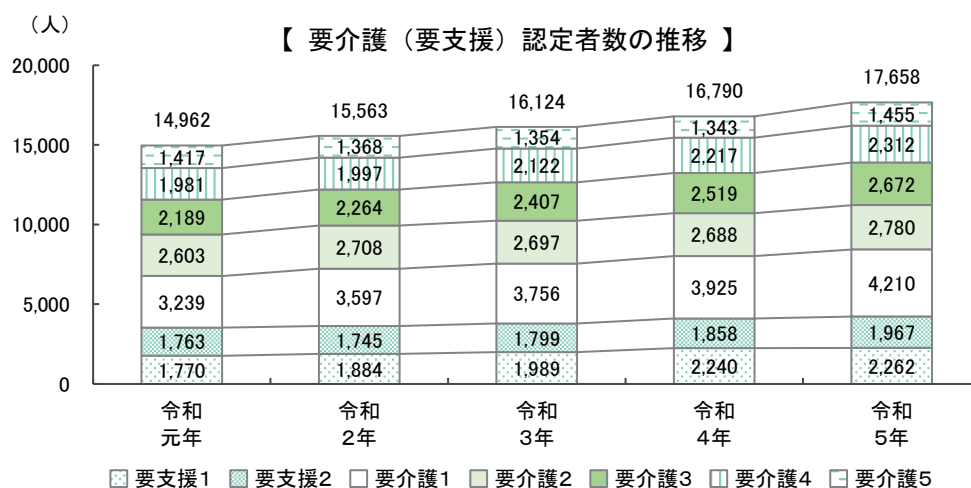
【 医療費における生活習慣病の割合（入院） 】 【 医療費における生活習慣病の割合（外来） 】



資料：KDBシステム 医療費分析（令和5(2023)年度（累型））

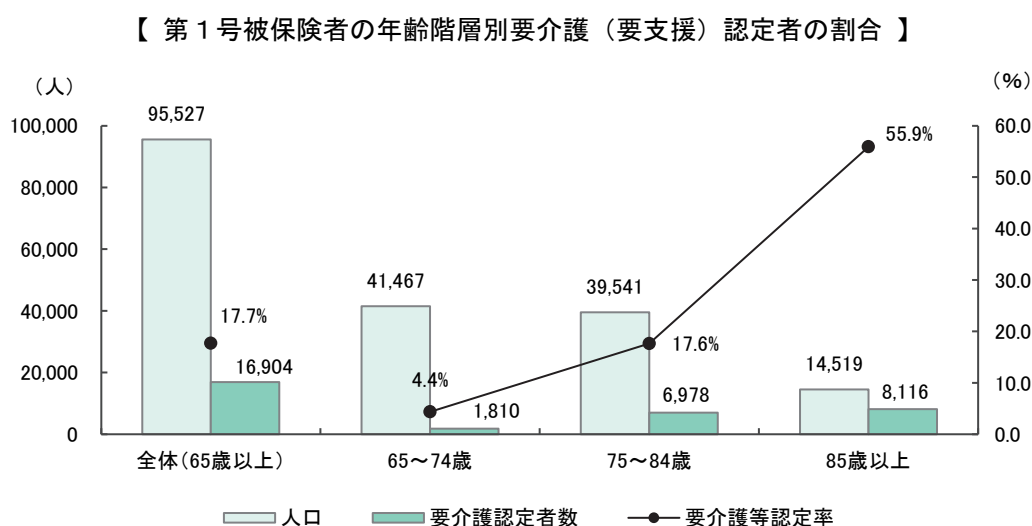
(2) 要介護（要支援）認定者の推移

本市の要介護（要支援）認定者数は年々増加しており、令和5（2023）年の要支援・要介護認定者数は17,658人で、特に、要介護1の認定者数が多くなっています。



(3) 第1号被保険者の年齢階層別要介護（要支援）認定者の割合

本市の第1号被保険者の年齢階層別要介護（要支援）認定者の割合を見ると、85歳以上では55.9%と、半数以上が要介護（要支援）認定者となっています。



5 コロナ禍における市民意識の変化

令和2年から流行した新型コロナウイルス感染症の影響により、社会全体や市民の生活状況が大きく変化しました。そこで、アフターコロナに向けた健康づくりの推進を検討するため、令和4年に「コロナ禍における市民健康意識調査」を実施しました。

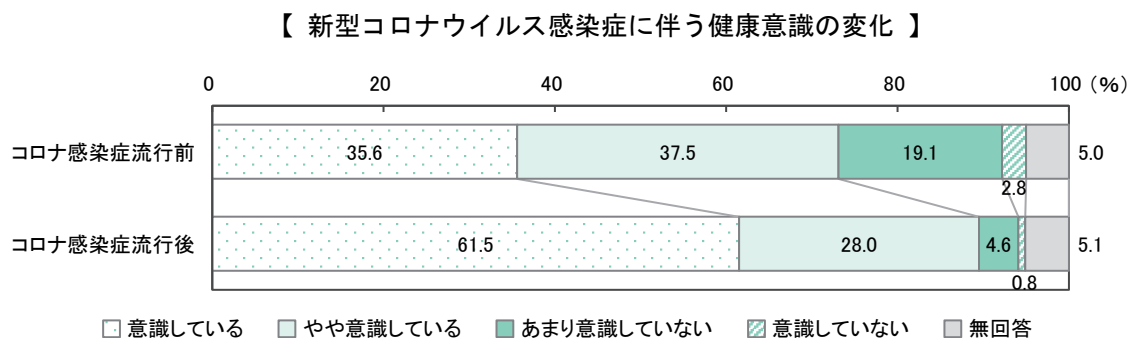
○調査期間：令和4年8月～11月

○調査対象者：一般市民、乳幼児健康診査保護者、幼稚園・保育園保護者、
小・中学生の保護者等

○回収数：2,288件

(1) 健康への意識

新型コロナウイルス感染症の流行に伴う健康意識の変化を見ると、新型コロナウイルス感染症流行前より健康を意識している人の割合が大きく増加しています。

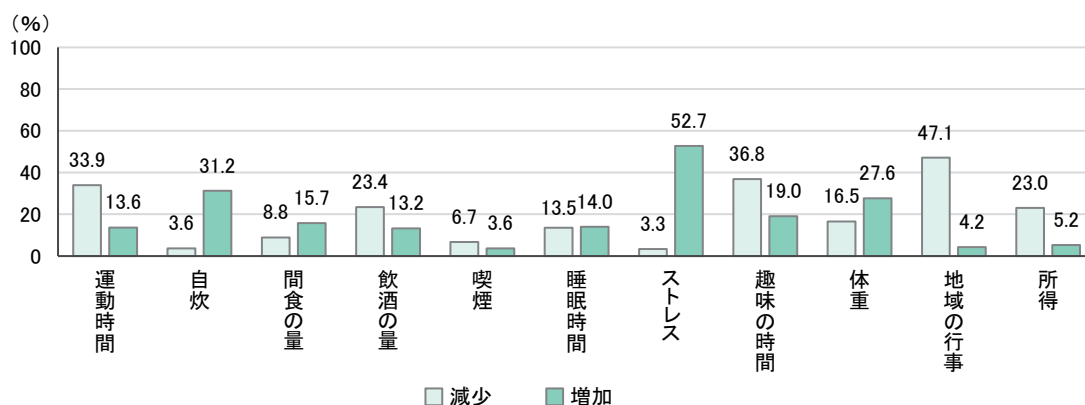


資料：コロナ禍における市民健康意識調査報告書（令和5(2023)年6月）

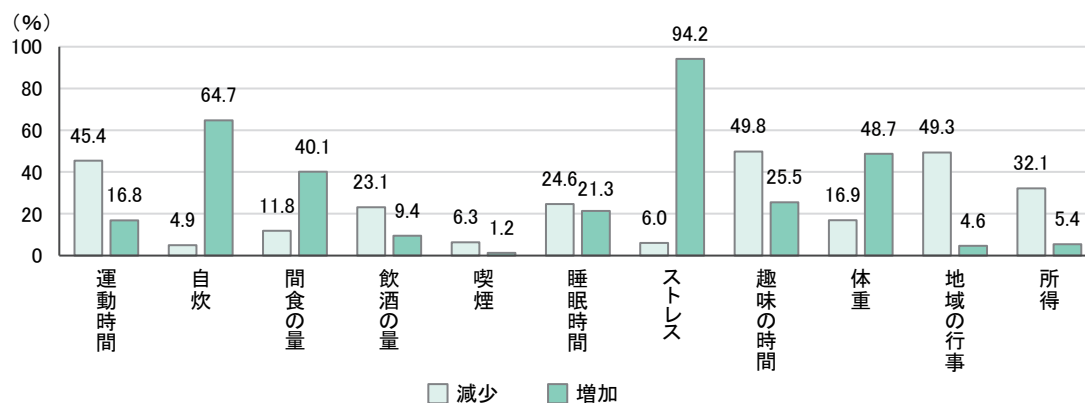
(2) コロナ禍における生活の変化

コロナ禍における生活の変化では、「ストレス」、「自炊」の増加の割合が高く、女性は「体重」、「間食の量」の増加の割合が高くなっています。一方で、「地域の行事」、「運動時間」、「趣味の時間」の減少の割合が高くなっています。

【 コロナ禍における生活の変化（男性） 】



【 コロナ禍における生活の変化（女性） 】



資料：コロナ禍における市民健康意識調査報告書（令和5(2023)年6月）